

【心の貧しい者が幸いです。】



聖書本文：マタイの福音書 5章 1-10節 / 暗唱聖句：詩篇 34 篇 18 節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛する信仰の兄弟、姉妹、家族の皆さん！先週一週間も主の平安の中でお元気でしたか。

今週から聖書を通して何回に分けて幸福シリーズのメッセージをさせて頂きたいと思います。みなさんもすでにご存知のように我々が信じている神様は我々を惜しみなく祝福しようとされるお方である事を聖書を通して分かります。その代表的な箇所が民数記 6章 24-27 節ではないでしょうか。“『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。』”

25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』

27 彼らがわたしの名でイスラエル人のために祈るなら、わたしは彼らを祝福しよう。』”

ねがわくは、愛するクリスチャンプレイズチャーチの小さい子どもたちから、年配の方に至るまで、今週もみんなこのような豊かな神の祝福を頂けますように切にお祈りし、主の御名によって祝福します！

ところが、聖書をよく読んで見ますと、神様の逆説的な祝福と約束がたくさん書かれています。ひよっとしたら、この世の観点で見ると、神様の御言葉の真理は矛盾のように見られるかも知れません。

例えば、[自分の弱さを認める時強くなる(第二コリント 2:10)]、[先の者が後になる(マタイ 19:30)]とか、[だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます(マタイ 23:12)]、「あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。(マタイ 20:26)」とか、[いのちを救おうと思う者はそれを失い、命を失う者はそれを救うのです。(マルコ 8:35)]とか、[人々に分け与えなさい。そうすれば、天に宝をつむことになる。(マタイ 19:21)] など本当に私たちの考えでは矛盾のようで、理解できないかも知れませんが、その逆説的な神様の真理の中では大きな祝福の秘密が隠されているわけです。

代表的に 今日は幸福シリーズはじめの時間として、新約聖書 マタイの福音書 5章でイエス様が山上で語られた8つの祝福の御教えから始めたいと思います。マタイの福音書 5-7 章はいわゆる山上宝訓(さんじょうほうくん)だと言われます。つまりイエス様が山の上で教えられた人が祝福され、幸いになれる宝のような尊い教訓だという意味であります。

8つの中でも始めて出ている「心の貧しい者が幸いになります。」という内容について一緒に考えて見ましょう。世の人はこの御言葉もなかなか同意できないかも知れません。この話って矛盾じゃないですか。我々が貧しいより、豊かで多く持っていることが祝福なのに、貧しいことってそれがなぜ祝福になると思いますか。人々は心が貧しくなると、憂鬱の状態になるか、人があまりけちけちするようになるのではないか、貧しい人は余裕がないから何も分け与えることもできないと思われれます。はたして、イエスキリストがおっしゃった幸いになるためのこの逆説的な御言葉の意味は何でしょうか。

<1. “心の貧しい”の意味>

今日の本文の御言葉は単なる経済的に‘貧しい者’が幸いになるという御言葉では決してありません。実際、原語の意味もそうです。

(1) 霊的な側面で貧しい人とは(対象)?

この箇所をより理解するために同じ御言葉であるルカの福音書 6章 20 節の箇所を参考にしたいと思います。どなたが一度読んでくださいますか。ここでは‘心’なしでただ‘貧しい者は幸いです。’と書かれています。6章 20 節の上半節で“イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら”と書かれた部分に目をとめてください。イエス様は今貧しい者だとされた人たちはだれですか。イエス様の前に出ている弟子たちに向かって“貧しいあなたがたは幸いです。”と言われたのです。つまり、イエス様は経済的に貧しい人たちではなく、イエス様に出て来た人たちが幸いであると言われたのです。

当時、イエスを信じてイスラエルではもちろん今もそうですが、ユダヤ教のその群れから追放の迫害は逃せませんでした(ヨハネ

9:22)。イスラエルのように宗教が支配している社会で迫害を受けるということは貧しくなることと直結していました。ですからイエス様を追いかける弟子たち、イエス様の御前に出て来た人たちは過去の 身分がどうであれ実際貧しい人たちでした。イエス様は彼らに幸いだといわれたのです。

みなさんの中でイエスを信じることで苦しみや損害を受けられた方がいますか。神様の信じるということで迫害や苦痛を受けられたことはありますか。イエス様を信じるのがむずかしい状況にもかかわらず、ただ神様だけを信頼し、神様の助けを求めたことがありますか。そしたらみなさんもイエス様が祝福してくださった同じ心貧しい者だと思います。そういうわけで貧しい人は徹底的な信仰の人です。

(2)心の意味は？

今日の御言葉はとつても短いですが、この中にもう答えがあります。イエス様が言われた幸いな人は経済的に貧しい人ではなく心の貧しい人とイエス様は言われました。日本語の聖書では心だと訳されていますが、原語では‘プニユマ’という単語で、実は心より‘霊(spirit)’を表す単語です。ですから新約聖書の中で聖霊を表現する時もこの‘プニユマ’のまえに定冠詞(ていかんし)(The (Holy) Spirit)をつけているのです。ですから心の貧しい者というのはただ悲しいとか、うつだとかの感情的な面ではなく霊的な面において貧しい者をいう意味です。

霊的に貧しい者というのは自分が霊的に窮乏(きゆうぼう)していることを認め、神様を絶対的なものとして頼る人です。自分の中にはいくら努力しても自分を救う何の資源がないことを認め、神様の絶対的な恵みと哀れみをまるで施しを求めるように切に求める人です。この人たちはイエス様の助けがなければ、イエス様を信じる信仰がなければ人生に希望がないと告白する人たちです。自分は神様の御怒りとさばきの下にあるので神様の哀れみと恵みでなければ生きていけないことを信じ、日々神様の恵みを慕い求める人です。自分が霊的にどれだけ軟弱で、貧しいものなのかをさとる人です。神様を離れては自分の真の姿がみえなく、絶望的で罪に無気力な自分であることを認める者です。一言で言うと神様の御前に素手でいく状態です。両手をあげて神様にただ神様のみをみあげながら出て行くのです。

<2. 聖書で表されている霊的貧しいたち>

聖書では‘わたしが目を留める者はへりくだって心碎かれ私のことばにおののく者だ(イザヤ 66:2)。”また‘主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、たましいの砕かれた者を救われる。(詩篇 34:18,51;17)’と語っています。聖書には霊的に貧しい人たちがたくさん出ています。自分は何のさとりもない者だと告白したヨブ(ヨブ 42:1-6)、そして神様の御前で自分はけがれていて、何の知恵や無力な者だとなげいたモーセ、ダビデ、ギデオン、イザヤ預言者(イザヤ 6:5)、神様の御前で、目を向けようともせず、罪人だと告白したある収税人(ルカ 18:13-14)、攻撃的で自己主張が強かったペテロにたくさんの魚を取るようにならせたイエス様に“私は罪人です。”と告白したペテロ(ルカ 5:8)、“自分には何の良いものがない”と告白したパウロ(ローマ 7:18,第一テモテ 1:15)など神様に用いられた多くの信仰の人たちが実際にはどれだけ霊的貧しい者だったのかを私たちはわかることができます。

反面、聖書には心の貧しくないものたちもたくさん記されています。神様の命令をあなどって自分を頼ったため苦しめられたサムソン(士師記 16:20)、自分は義人だと信じ、ほかの人をさげすんだパリサイ人(ルカ 18:9-14)、自分の持っていた物質だけが永遠であるように信じ、神様を頼らなかったおろかな金持ち(ルカ 12:19)、本当はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸のものであるのに‘自分たちは富んでいると、豊かで乏しいものはなにもない’言ったラオでキヤ教会の信徒たち(黙示録 3:17)など神様の前で霊的に高慢で、富むものだと自称して、結局は神様にしかられた多くの人たちもいます。

初代教会から中世教会に時代が変わるころ偉大なキリスト教思想家だったアガスティンはキリストの福音を人がまったきものとして受け入れない最高の障害物は自分たちの高慢にあると強調しました。自分の知識、自分の富、自分の地位などを誇る時こそ高慢なときだと指摘しながら、彼はそんな私たちがもっているすべては偉大な神様の御前では何もないことだと認めるまでキリストは自分たちとはなんの関係がないと訴えました。宗教改革者であるマルティン・ルターは自己功勞、自己誇示が神様の前ではなんの益とならないことをさとした時こそ、心が貧しくなると言いました。

有名な神学者であるウィリアム・ハンドリックス先生は“心の貧しい者というのは自分の霊的貧困を日々確信する人たち”だと言いま

した。真に正しいと思います。19世紀イギリスの有名な説教家だったチャルズスパールジャン先生は“イエス様の教えてくださった天国を所有する心の貧しい者というのは心の中心で自分の足りなさを認め、悲しみながらそしてこの事実を日々告白する者たち。”だと言いました。20世紀キリスト教のすばらしい作家だったルイス(C.S.Lewis)はこの言葉を残しました。“自分が考えた時すぐれたとか、だれだれさんよりはましだという考えがあるならそれは神様によって動かされるのではなく悪魔によって動かされるに間違いはない。今自分が神様の御前にいるということを現してくれる正しい基準といえばそれはあなたが自分の立場を忘れるか、あなた自身を惨めで、けがれたものとしてみる事です。あなた自身について全部忘れるほうがましだ。”

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！今日私とみなさんは生きておられる神様の御前でどちらに立っていると思いますか。みなさんは霊的に貧しい人ですか。それとも自分は霊的に問題なく、富んでいるので、神様の助け無しでも十分生きていられると信じている人ですか。みなさんは先週一週間の間、神様の御前で正直に、懇切に神様の哀れみと恵みを慕い求めながら霊的に貧しい者として生きましたか。それとも神様なんか必要ではない者のように、神様とは全然関係ない者のように生きていませんでしたか。この時間神様の御前で自分自身をさぐり、神様の哀れみを求め、悔い改めようではありませんか。今日も生きておられる神様の御前で心の貧しい者になりましょう。

今日私たちは、神様の御前で認めることがあります。今日、教会に初めて来られた方でも、長らく、イエスを信じてきている人でも、自分は神様ではない事実と生きておられる神様の御前で自分たちはなんのほこるものはないことを認めることだと信じます。そして日々、切に神様の哀れみと助け、神様の恵みを追い求めるみなさんとなりますように切に願います。アーメンですか。アーメン！

<3.しかし…誤解してはいけない部分があります！>

しかしみなさん！私たちが注意すべきことがあります。心が貧しくなるということは決して軟弱で勇気もなく、受動的クリスチャンになれという意味ではありません。みなさん！忘れないでください。

心の貧しいというのは確信がないことではなく、むしろ主に対する確信を持つということです。

心の貧しいというのは勇気がないことではなく、むしろ主にあって勇気があるということです。

心の貧しいというのは意欲がないことではなく、むしろ主にあって意欲があるという意味です。

心の貧しいというのは受動的でいつも弱いではなく、むしろ主にあって主から与えられたタラントを積極的に活用し、健康なクリスチャンになるということです。

心の貧しいというのはイエスキリストにあって確信と勇気と意欲があつたとしても、神様の助けなしにはなにもできない存在であることを認め、告白することです。そして心の貧しい人たちは自分の霊的足りなさ、失敗を認める者、それでただイエス様だけを頼る者です。イエス様を信じ、追いかけられた弟子たちの一生を考えてみてください。彼らは趣味として、時間があまって、余裕があつてイエス様を追いかけられたものたちではありません。どんな苦しみと試練がやってきても献身し、神様に人生をかけ、命をかけて神様を信じた者たちではありませんでしたか。

まとめ:<御国は霊的に貧しい者たちに与えられる祝福です。>

イエス様は“自分が霊的に貧しいという事を知っている人は幸いです。(マタイ5:3)”とおっしゃいました。つまり、自分が神ではないということを常に認め、いつも悪いことをしてしまう自分をコントロールする力がないこと、そして自分の人生が手に負えない状態にあることを認める事を主に祈りを通して告白する意味であります。

みなさん！心の貧しい人たちの人生はどうでしたか。彼らは不幸でしたか。全然そうではありませんでした。むしろ彼らの人生は美しいほど素晴らしかったです。彼らは死んで天国の喜びを味わったものだけではなく、涙と苦しみの多いこの地上でも天国の喜びを味わいながら生きたものたちです。

イエス様は心の貧しい人がかわいそうではなく、‘幸い’(ギリシャ語でマカリオイ)だと言われました。

なぜですか。心の貧しい者たちに与えられる神様の補償は天国つまり神様の御国をくださると約束されたからです。聖書のたくさ

んの箇所に天国はたしかにイエス様がおられるところとして場所をもっていると書かれています(ヨハネ 14:2,3,ルカ 23:43,ピリピ 1:23,コロサイ 3:1,第二ペテロ 3:13,黙示録 21:1など)。そしてイエス様を信じる者はだれでも主がおられる天国でもとにいられると信じます。しかし死んだ後だけではなく、現在この世を生きている間でも御国を経験されると聖書は教えています。自分の中に住まわれる聖霊によって、神様が自分たちを治めると御国の喜びを味わえるということです(ルカ 7:21)。するとこのような天国はだれのものだと言われているか。

‘心の貧しい者’の分だと宣言されました。この世では艱難に会い、苦しめられますが、神様をかたく信じ、望む者たちに神様は天国の祝福をくださると約束されました。神様が治め、神様が守ってください、神様がいつもともにいてくださって導いてくださる祝福をこの世にあってもいただける祝福の秘訣をイエス様は教えてくださったのです。天国は自分に押し立てることはなにもなく、ひたすら神様だけを見上げる者に与えられるプレゼントです。資格がない人に与えられる神様の一方的恵みです。天国は心にやってきます。自分たちが謙遜にならなければ、けっして得られないプレゼントです。

心の貧しい人たちは自分たちの王国を放棄し、逆に神様が支配される御国を所有する幸いな人たちです。

私たちも、この世を生きている間でも御国を所有する幸いな者となりますように祈ります。死んだ後もあの御国で神様とともに賛美し永遠に交わる仲間となるように切に祈ります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族の皆様!

神様の御前で幸いな人生は心が貧しい者です。霊的に自分には何の力もない者であることをいつも主に認め、助けを求めるものです。今日私たちも、そのような信仰の人々になってこの世を生きている間でも御国を所有する幸いな人生となりますように祈ります。そして、死んだ後もあの御国で神様とともに賛美し永遠に交わる仲間となるように切に祈りつつ、主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!

